

# 恵みと真理のニュース



2013年11月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

## 血涙症を治して下さり、 神様を完全に信じ頼りながら愛する人生で変えてくださいました。

私はキリスト教の家庭で生まれました。母が熱心なキリスト教の信者だったので父を除いて全ての家族は教会に行かなければならなかったです。子供の頃は仕方なく教会に行くのが嫌でした。それで寝坊するため母が起こしても寝ているふりをして教会をよく休んで母に叱られました。しょうがなく教会に行くとぶっくらんぼうのように座って説教の御言葉を聴く事もそこそこして人々とも仲良くしなかったです。教会には通いましたが信仰ない信仰生活でした。信仰を成長するため青少年の教会キャンプにも行って見ましたが熱心に祈り賛美しいげんの賜物を受けた他の友達がうらやましくて帰って帰って来ました。高校までそんな生活が続きました。干渉しなかったからです。主日に教会に行こうと起こす人がいないから寝坊する事ができました。その間教会に行くため見なかったTVも見たし私がやりたい事をしながら無意味な主日を過ごしました。そのように神様と教会からどんどん離れました。しかし、神様は私を忘れなかったです。大学に入ってクリスチャンの友達を付き合いその友達がキリスト教のサークルに加入すると言いました。たってその友達と一緒に同じサークルに入る必要はなかったですが私もついて共にサークルに入りました。そのサークルはチャペル時間に人の前で賛美をする聖歌隊のような集まりですが私は性格が内省的だから前に出ることがとても嫌でした。しかし、私の性格に合わないサークルに入った事は私が考えても神様の摂理だと思いました。その様に始まったサークルの活動が思ったより楽しかったです。良い人々と出会って多くの経験をすることができました。舞台上立って賛美をすることがいつも消極的だった私には自身ができるようになりました。また、サークルで海外宣教ボランティアに行く事になって私も参加して奉仕の楽しみも知るようになりました。信仰が良い先輩と同期を見ながらうらやましくて私も同じ信仰を持って生きたいと願いました。その間教会から離れた時間が長かったので教会にまた足を運ぶのは難しかったですがまた教会に行く思いを与えた大事な時間でした。

大学を卒業した後、サークルの生活が思い出して“もう一度教会に行こう”とする思い主日を待ちました。しかし、主日に怠ける生活をする事がなれてしまっ一週二週時間が経つとその思いがなくなりました。社会生活をしてから日曜日は主日ではなく団体の休日になりました。会社の仕事が大変で一週間のなかで日曜日だけは休みた言いと自分の合理化で教会に行かなかったです。そうするうちに私は病気になりました。歩くだけでも吐き気でめまいで日常生活が不可能でした。当時遊園地で勤務していたから活動量が多かったので仕事はできませんでした。仕方なく退職して病院に行って検診を受けました。多嚢胞性卵巣症候群の診断を受けました。珍しい病気と貧血また甲状腺機能低下症という診断を受けました。中学生のときから患った血涙症があったからです。多嚢胞性 卵巣症候群は完治できる正確な治療法がなかった時間と管理だけ唯一な治療方法だそうでした。結局病院に行っても完全な治療も受けなくて鉄分剤だけもらって来ました。死ぬ病気ではないが放置したら不妊になる病気だと言いました。頑張る努力したら治るけどその条件と方法が私には本当に大変な事でした。毎食栄養的なメニューでよく食べて、よく寝ていつも平気な心を持って幸せな生活を送る事が実践する事が難しいようでした。貧血も鉄分剤を食べると良くなるようでしたが血涙症はまだ治ってなくていつかまた血が足りないかわからないことでした。その時、私の頭の中には新訳聖書のマカの福音書に出る血が止まらない女が治された話が思い出しました。12年間血涙症で苦痛を受けましたが信仰でイエス様のところに出てイエス様の服を触って直された女がいった事を思いました。そして教会に行き祈りを捧げようと思いました。すると私もその女のように治されるようでした。イエス様の服を触れる心で教会に出て祈りを捧げました。長い間行かなかった教会を通い始めました。その、後貧血は神様に祈ってたゆまず鉄分剤を食べながら良くなりました。たくさん歩いてもめまかつたり吐き気はしなかったです。多嚢胞性卵巣症候群はどんどんよく治っているか分からなかったですが熱心に祈りました。

ある程度体の状態が良くなって今回は甲状腺に対する検査を受けてみるようにしました。精密な検査のため大きい病院に行って超音波検査と組織検査を受けました。検査結果、癌になる可能性の腫瘍があるから何ヶ月に一回づつ検査を受けるといいました。最初は検査を受けた結果でとても恐れしました。“腫瘍が癌になるとどうなるのか”たくさん心配しました。しかしこれも返ってみると感謝することでした。単純に貧血チェックしに行った病院で以上の症状を発見して癌になる前に知ることになったことが驚くことだと思います。確率的に低くなる可能性が低い確率ですが希望をもって祈ろうと思いました。ある日、母が私に月曜祝礼拝へ行こうと勧めました。当会長牧師がいらっしゃるから牧師に祈りを受けようと思いました。礼拝の後当会長牧師から祈られてなんか本当に治った感じがして家に帰ってくる足に力が出ました。その後もう一度当会長牧師から祈られて腫瘍の大きさがどうなったか確認するためまた甲状腺の検査を受けました。大きさを確認して大きくなったら組織検査を通して悪性腫瘍になったか確認します。検査結果が驚きました。確立的に低いですが大きさが小さくなったことです。医師もこんな場合が多いと喜んでくれました。今まで教会を真面目に通った事もないですが、信仰が足りないですがこんな私に愛と哀れみを与えてくださる神様に心深く感謝の祈りを捧げました。そして、これからは熱心に教会に通い神様を畏れ委ねながら愛する人生を生きると決心しました。私が治療を受けたことは甲状腺だけでなかったです。長い間私を苦しめた血涙症もきれいに治されて今は普通に生活しています。私はこれからまともな私の意志と喜びで教会に通っています。真な神霊で神様に礼拝ささげ神様に尊く用いられる者になる事を願いながら祈ります。トマスのように疑う私を最後まで導いてくださった神様に感謝を捧げます。驚く恵みと愛を体験させこの事をあかする恵みを与えてくださった神様を声高く賛美します。ハレルヤ！



【信仰コラム】

## 神様のうつむけにたおれて変化した人

私が地にうつむけにたおれて聞くと音あり曰くサウルよサウルよお前がどうして私を圧迫するかって…(行22:7-11)

信仰に関する知識を論理的に説明する能力はなくても神様の栄光と能力に接して伏せてなる経験をした人の信仰はしっかりします。真の聖徒は神様の栄光と能力に接して伏せて取るようになった経験があります。パウロ使徒は彼が使徒になる前には教会を非常に迫害しました。ステバン執事を殺しに加担し、エルサレム各家を通して隠れているキリスト教を探し出して、刑務所に入れました。彼は、脅威と殺気がみなぎった中、ユダヤ人の最高議会サンヘドリンに要求して議長である大祭司長が発行した逮捕委任状を受け、持ってユダヤ人キリスト教人を逮捕してこようとダメセクに向かって行きました。そのようにキリスト教人を憎悪して伝道を妨害したパウロが電撃的に変化して福音を伝播に全生涯をささげた使徒がなることが発生しました。その事情は非常に驚き、劇的です。彼が動員された人々を率いてエルサレムを出発してダメセク都城に近くに達するようになった時でした。その時忽然と空から正午の太陽の光よりもっと明るい光が彼らを巻いて照らしました。すべて地にうつむけにたおれました。パウロは自分に注文する神様の音声を聞きました。彼は、イエス様を神様と呼び“神様、私が何をしなければなりませんか?”しました。神様の栄光と能力に接し

て非常に異なる人になりました。福音を邪魔した者が福音伝道者になりました。神様を闘った者が、イエス様のために生命を捧げる者になりました。教会を圧迫した者がアジアと地中海の向こう側のいたるところに教会を建てました。神様の栄光と能力に接してうつむけにたおれる体験は、体でうつむけにたおれるものだけを言うのではないです。心霊で起こる事件にならなければなりません。そうでなければ目が無意味です。パウロと同行した一行が皆うつむけにたおれました。一行には何の変化が問われないが、パウロは変化されました。これは生きて主のために生き、死ぬのも主のために死んでこのため、生きるも死ぬも、自分は神様の所有という考えをしました。以後キリストの審判台の前に立つことを念頭に置いて歳月を惜しんで標柱に向かって全力を注ぎました。体がうつむけにたおれる事がなくても心霊に輝く日の前にうつむけにたおれる体験をしなければなりません。聖書を読んだり、説教を聞いてあるいは祈りしたり、讚美し、あるいは苦難と危機に会うことになる、神様の栄光と能力を接するようになって神様の前にうつむけにたおれる体験がいなければなりません。神様の前にうつむけにたおれたのは、恥じがありません。逆に大きな幸運であり幸運です。会長のヤイロが走ってきて人々が見守る前でキリストの足下に平伏してその日、彼の死んだ娘が蘇る恩を着られるようになりました。スロポニゲ女性はすべての

障害を突破してついにイエス様の前に来て神様の足の前に平伏してその時間、娘が鬼神から放さされました。神様の下かけることが自発的な行為であれ圧倒的な能力によってなったのであれ重要なのはその心霊状態です。神様の栄光と能力に圧倒され、自我が割れなければなりません。“神様、私が何をしましょうか?”と問う姿勢ができなければなりません。夜が明けのように網を投げたが、一匹の魚も釣れなかったペトロが彼の空いた船に乗ったイエス様の言葉の通り行い、網が破れて船が沈むように多くの魚をつかまえました。彼は、イエス様の膝の前に伏せ、直ちにすべてを放擲して、イエス様を受けました。人生の優先順位が入れ替わっている変化が起こるのです。今までは船と網が最も大切、魚を釣るのが一番重要なことだったが、これは主がおっしゃる‘人釣り漁師’になる使命が最も重いものとなりました。神様の栄光と能力を体験して神様の前に腹ばいになる人は人生の態度が変わってきます。仕事の優先順位が入れ替わっています。神の善良心を固く信じます。最善を尽くしながら神様の知恵にすべてを任せます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

## 誰が似以非キリスマンか？



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

私たちが事物を見当見当と判断すれば誤った判断することができます。誤った判断しても問題になることがない事があるが重大な問題になる事があります。人の一生だけではなく死んだ後の運命にまで決定的に重大な影響を及ぼすのがあります。それは信仰です。ところで人が必ず分らなければならぬことは救いに至るようになる信仰とそうではない信仰があるという事実です。何の宗教を信じてもどんな対象を信奉してもどんな教理を信じても信じるだけです。救いを得るのではないからです。だから救いに至る信仰が何やら分かるよりもっと重大ながないです。“ひらめくとすべてが金ではない。”という格言があります。キリスマンの中にも似以非があります。似以非と言うのは表では同じに見えるが実際には全然違ったことを称える言葉です。聖書はその人がまことのキリスマンか似以非キリスマンなのかを選び分ける試金石でパロメーターです。

### 第一、救いの真理に対して聖書に記録された言葉に一致しない自分の意見を加える人は似以非キリスマンです。

救いの真理は神様が決めました。その真理が聖書に記録されています。救いの真理に対しては聖書に記録された言葉に自分の意見を加えるのが許されません。救いの真理は人が変えることができません。有名で力強い人と言って変えることができるのではないです。会員が多い教団のリーダーたちだと言って変えることができるのではないです。国際的な団体で幾多の人を呼び起こして決意して宣言するからといって変えることができるのではないです。他の宗教の教理や儀式をキリスト教に加味してキリスト教の本質を濁すようにして混雑するようにすることを私たちはきっぱりと排撃しなければなりません。

仏教の慈悲とキリスト教の愛を同じ脈絡で理解して救いの真理を説明しようと思うことはとても間違っています。ほとけの慈悲と神様の愛は本質的に違うのです。ほとけの慈悲は罪人を救いすることにはどんな関連がないです。神様の愛にはあがないの恵みがその核心です。聖書にはそういう事実をよく現わしてくれる句節たちがたくさんあります。“神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”(ヨハネによる福音書 3:16)、“わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。”(ヨハネの第一の手紙 4:10) しました。聖書に明白に啓示された救いの真理をそのまま言わないで自分の意見を加えて福音を歪曲させる人は彼がたとえキリスマンだと言っても実は似以非キリスマンです。

### 第二、救いの真理を二重の言語を使いながらあやふやに言う人は似以非キリスマンです。

正統信仰を持ったキリスマンは救いの真理を曖昧に言わないです。救いの真理に対しては明らかできっぱりと言います。聖書どおり信じて聖書どおり言うからです。釜山ベックスコで開催された WCC 10 次総会に参加した WCC 宣教分科の議長コオリルロス司教が記者インタビューでこんなものを言いました。“救い”という用語をどんな意味で受け入れるか？という質問に対して彼は返事をするのを “全能な神様が私たちが分からない他の方式で他の宗教を信じる人や宗教がない人を救いするかわからない。”と言いました。イエスキリストを信じれば天国へ行って、信じなければ地獄へ行くと思うか？という質問に対して彼は返事をするのを “それはわからない。”とした後 “明らかなのは私たちはイエスキリストを信じているし、そういう信仰を分けなければならぬというのだ。神様は愛する子たちを責めるとか地獄に行かせるために来たことではなく、救われるためにこの地へいらっしやっただのだ。”と言いました。

そして “WCC の最大の目標は多くの教会の一致と団結だ。教会たちが集まって一つの目標のために一声を出そうとするのだ。もちろん理念と教理が違うから完全な一致は成しにくい。しかし愛、平和、正義は誰でも同意することができる神様の旨だ。その共通の目標中で一致を成すことができる。これは私の考えではなく聖書に出ている内容だ。私たちは聖書に基礎している。”と言いました。WCC 宣教分科議長コオリルロス司教は救いの概念を二重的な表現であやふやに答えています。

コオリルロス司教の返事を詳らかによく見ます。“イエスキリストを信じれば天国へ行って、信じなければ地獄へ行くと思うか？”という質問に対してコオリルロス司教は返事をするのを “わからない。”と言いました。しかし聖書には救いに関して断定的におっしゃっています。ヨハネによる福音書 14 章 6 節に “イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。使徒行伝 4 章 12 節には “この人による以外に救いはない。わたしたちを救いする名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。”と明白に記録されました。コオリルロス司教は “神様は愛する子たちを地獄に行かせるために来るのではなく、救われるためにこの地へいらっしやっただのだ。”と言いました。彼は “神様の愛する子” という言葉の概念を聖書どおり把握することができません。神様の子はすべての人間を言うのではなくイエス様を救主に信じて迎えて生まれかわった人々のみを言います。聖子イエスキリストが世の中へいらっしやっただことは悪魔の子になった罪人たちが神様の子になるようにするためののです。神様はその子たちを天国で導いて、悪魔は自分の子たちを地獄に導いています。

WCC 宣教分科議長コオリルロス司教は “WCC の最大の目標は多くの教会の一致と団結だ。教会たちが集まって一つの目標のために一声を出そうとするのだ。もちろん理念と教理が違うから完全な一致は成しにくい。しかし愛、平和、正義は誰でも同意することができる神様の旨だ。その共通の目標中で一致を成すことができる。

これは私の考えではなく、聖書に出ている内容だ。私たちは聖書に基礎している。”と言いました。しかし聖書どこにも教会たちが愛、平和、正義という共通の目標中で一致を成しなさいと言った言葉がないです。

エペソ人への手紙で 4 章にこんなに記録されています。“できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。”(エペソ 4:2~6) しました。この言葉は教会たちが愛、平和、正義という共通の目標中で一致を成しなさいと言った言葉ではないです。組織と器具としての教会を一つで縛って世の中のあらゆる宗教をすべてひいて集めて一つになるようにしなさいという言葉ではないです。聖徒たちは同じ洗礼を受けて同じ神様を仕えて同じ所望と信仰の中で同じ神様を仕える人々です。聖霊が聖徒たちにこんな恩寵を着るようにしたから謙遜と溫柔と長く堪え忍ぶことと愛で受け入れることと和平の並びとしてそういう正体性を力をつくして守りなさいと言いました。キリストにあって聖三位一体である神様を愛して仕える事に一致して福音を伝える事に一致するのが聖書が命ずる一致です。

宗教多元主義者たちは救いに関して天国と地獄に関して宣教に関して二重の言語を言って聞く人を混同するようにします。聖書は救いに関して非常に明瞭できっぱりとおっしゃっています。イエスキリスト外には救いの道がないと宣言します。“全能な神様が私たちが分からない他の方式で他の宗教を信じる人や宗教がない人を救われることもできる。”と言うことは神様がイエスキリストを世の中に送ったこととイエス様のあがないの使役を無意味な事で損毀することに違いありません。聖書どおり信じないで聖書どおり言わないからそんな言葉を尋常にさせるのです。

今日の本文に “あなたがたは先にこれが分からなければならない。すなわち聖書のすべての予言はわがまま解釈してはいけないというのだ。予言はいつも人の意に従って出たのではなくただ聖霊の感動することを受けた人々が神様に靈感を受けて書かれたものであって”と言いました。救いに関する真理を言う時まことのキリスマンは聖書どおり信じて聖書どおり言います。聖書と一致しないものを言う人とそんな人をおぼけて美化する人は似以非キリスマンです。皆さんはまことの聖徒として救いの福音を聖書どおり信じて聖書どおり言いながら広く伝えるようにお願いします。